

新しい公共支援事業の成果等報告
(新しい公共の場づくりのためのモデル事業分)

1. 成果等報告

モデル事業名	福島とつながる種まきプロジェクト
分類	<input type="checkbox"/> 一般枠 <input type="checkbox"/> NPO支援重点化枠 <input checked="" type="checkbox"/> 震災支援枠 (該当するものにチェック)
事業実施主体名	福島とつながる種まきプロジェクトネットワーク
実施期間	平成23年1月1日から平成24年3月31日まで
支援額 (注釈参照)	<p>※ 支援額は総額及びその内訳を記載してください。</p> <p>平成23年度</p> <p>(1) 事務所開設 (宿泊機能のある事務所 50,000×3ヶ月 = <u>15万円</u>) (2) 車両 (中古車 <u>50万円</u> 購入、名義変更手数料、税、保険等含む) (3) 事務機器 (パソコン、プリンター等 <u>10万円</u>) (4) 人件費 (専従者常駐 10万円×3ヶ月 = <u>30万円</u>) (5) 管理費 (光熱費、ガソリン代、消耗品費、通信費、印刷費、雑費 <u>5万円</u>) (6) 事業費 (広報・普及活動 <u>20万円</u>、研修事業 <u>20万円</u>)</p> <p>合計 150万円 (1)(2)(3)については平成23年12月 <u>75万円</u>、(4)(5)については平成24年1月～平成24年3月 <u>35万円</u>、(6)については平成23年12月～平成24年3月(<u>40万円</u>)</p> <p>平成24年度</p> <p>(1) 事務所賃料 (50,000×12ヶ月 = <u>60万円</u>) (2) 車両費(税等 <u>5万円</u>) (3) 人件費(10万円×12ヶ月 = <u>120万円</u>) (4) 管理費 (<u>20万円</u>) (5) 事業費 (広報・普及活動 <u>15万円</u>、研修事業 <u>80万円</u>)</p> <p>合計 300万円 (1)については平成24年4月～平成25年3月(<u>60万円</u>) (2)については平成24年4月～平成25年3月(<u>5万円</u>) (3)については平成24年4月～平成25年3月(<u>120万円</u>) (4)については平成24年4月～平成25年3月(<u>20万円</u>) (5)については平成24年4月～平成25年3月 (<u>95万円</u>)</p>
マルチステークホルダー(会議体)の取組状況	<p>①フリースペース F</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局としての機能を担う。 ・日常業務の実施、計画事業推進のための管理運営業務を行う。 <p>②国立市都市振興部産業振興課・国立市市民協働課</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・農地借用等、信用を必要とする場合の仲介役等を引き受ける。 ・民間の資材では貰えない備品等の調達の便宜を図る。 (不用品のロッカー、雨水タンクの利用許可、会議会場等の無料提供、行政内他課との連絡調整=避難者への情報提供) <p>③三多摩たべもの研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業・農産物・生産者についての知識、情報の提供。 ・福島県有機農業ネットワークとの協働・連携を円滑にすすめる。 <p>④恵泉女学園大学・澤登ゼミ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの福島県有機農業ネットワークの生産者とのつながりを生かした福島支援 <p>⑤いわきを支援する女たちの会</p> <p>福島県いわき市出身者のグループなので福島現地で様々な分野で活躍する、家族、知人、友人を持つ。従ってマスコミにも載りにくい福島現地のリアルな声や状況把握や詳しい現地情報を得ができる、本当に必要とされる支援とは何かをリアルタイムで掴むことができる。</p> <p>⑥くにたちで被災者を応援する市民の会</p> <p>くにたち市民有志で作られた主にチャリティーコンサート等で寄付を募る活動を行っている。支援活動に資金は絶対に必要なので必要な時に市民に向けて支援を訴える活動やまた市民に啓発するときのパイプ役としても機能する。</p> <p>⑦「福島を想う」プロジェクト実行委員会</p> <p>東京在住の主に福島出身者の若者たちのグループ。福島現地の若者や避難中の若者にコミットし被災をどのように受け止めこれからどのようにしていこうとするのか、ともに感じ考えていく場を作っていく。</p> <p>⑧NPO法人 福島県有機農業ネットワーク</p> <p>福島県内の有機農業を目指す農家がネットワークし、有機農業で安心して生計を立てられる農家を目指していた矢先に被災し今後の福島の有機農業の継続の困難性を突き付けられている。しかしそれをあきらめることなく何とか解決しようと努力している団体。</p>
事業概要	<p>※ 事業の概要が分かるように、100~150字程度で簡潔にまとめて記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立市の農地を活用し、ひきこもりがちな被災者が土にいそしみ、野菜や花を作り命が育つ喜びを感じ癒され、市民と接し生きる意欲につながるような取組みを行う。 ・ 福島の商業活動や有機農業者を国立市に招き、国立在住避難者、農業者、商業者とつなぎ自立生活への意欲と自信を培う。 <p>高校生・若者等を対象に、次世代育成のための福島・国立間の農業・商業教育研修旅行を実施する。</p>
事業内容	<p>※ 事業内容、実施事項、実施方法、実施の分担（直接、委託、助成を含めて）等について記載してください。</p> <p>1) 福島県被災者支援事業</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「てくてく農園」の運営による避難者との交流事業 ② 福島ふるさと交流会との交流（さわやか財団との連携） <p>2) 福島現地との交流事業による農業・教育支援事業</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 福島県立小高商業高等学校商業研究部の招待 ② NPO法人 福島県有機農業ネットワークとの連携

	<p>⇒オーガニックカフェ「ふくしま オルGAN堂 下北沢」の支援</p> <p>③ 恵泉女学園大学との連携・協働</p> <p>⇒交流事業の会場提供</p> <p>⇒教育機関としての福島支援（小高商業高校生の教育プログラム）</p> <p>⇒福島県有機農業者の生産物販売等の支援</p> <p>3) 国立市の農業者・商業者・教育機関との連携・協働による都市農業再生を共通の課題にしたまちおこし事業「くにたちマルシェ」に取り組んだ</p>
得られた成果 及び自己評価	<p>※支援の成果、波及効果、今後の展望等のアウトカム等の事業の総評を記載する。(500字以内)</p> <p>・福島の子ども・生徒たちの休息・保養・学習の場を提供した結果、生徒たちは新鮮さを感じとり、始めて経験することに刺激と喜びを感じ、よい教育効果をもたらした。また東京で福島を思い何かの力になりたい支援したいという気持ちとまなざしをもっている人たちがいることをしっかりと感じてくれたようだ。忘れずに見守り続ける東京の人たちがいることが若者たちを力づけたようで、東京に招いた甲斐があった。</p> <p>・国立市行政・農業関係者・商業関係者・市民とが、農業や商業の活性化を図り街づくりをともにすすめていくための、関係性作りのきっかけを作った。そのきっかけが福島支援の気持ちから生まれたことと、福島の小高商業高校生のプレゼンを受けることでできたことは、福島にとっても国立にとっても大きな成果であった。</p>
評価ランク	<input type="checkbox"/> S：特に優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> A：優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> B：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> C：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> D：成果が得られなかった (該当する評価にレを付けてください。)

(注) 当該支援額により取得し、又は効用の増加した価格が50万円以上の機械及び器具等がある場合、別葉にて、機械等の名称、価格、管理者及び耐用年数等を明記すること。

2. 添付書類

事業の実施内容及び実績に関する報告書